

2025 広島水道展によるこそ

(一社)日本水道工業団体連合会
専務理事 森岡 泰裕



日本水道工業団体連合会（水団連）が主催する最大のイベントと言っていいでしょう、それが日本水道協会全国会議に併設で開催している「水道展」です。

水道展は日本水道協会全国会議、研究発表会に参加する全国の水道事業者の方々をはじめ、水道事業に関わる関係者に対して、出展各社が日頃から研究開発した最新技術や新製品・サービスを展示・紹介し理解を深めていただくことを第一の主旨としています。それとともに、関係者との情報交換を通して水道事業の発展に貢献することも目的としています。その水道展の歴史は昭和42（1967）年和歌山県白浜町から始まっています。

さて、第57回目を迎える今年の水道展は、10月29日～31日、広島市の「ひろしまゲートパーク」で開催します。今回は平成29年高松水道展以来の屋外での開催となります。会場となる「ひろしまゲートパーク」は広島市民球場跡地に整備された市街地にある公園で、原爆ドームなど観光名所も至近で、このようなまさに中心市街地での水道展開催は初めてとなります。

2025 広島水道展 出展者数・出展ブース数の業種別内訳

業種別	出展者別	ブース別
総合	22	13
管、バルブ、蓋・樹類	50	43
ポンプ、水処理・下水処理、電機設備 （探知機を含む）	29	25
水質試験機器、薬品	5	5
給排水設備	6	5
業務委託（施設運転・維持管理、システム 開発、メーター検針・料金徴収等を含む）	16	12
設計・工事	21	21
検査・データ分析、調査等	6	6
計	155	130

この「ひろしまゲートパーク」は曲線で囲まれ、芝などの緑地帯も多く、展示エリアは4か所に分かれます。その結果、ブースレイアウトがユニークなものとなっており、皆さんに何度もご来場いただけるようなワクワク感のある展示会場になっています。

出展者数は155ですが、共同出展もあるため出展ブース数は130となっており、2024神戸水道展（出展者数153、出展ブース数129）を上回っています。

出展ブースを業種別にみえますと、「管、バルブ、蓋・樹類」のブースが43で一番多く、以下「ポンプ、水処理・下水処理等」のブースが25、「設計・工事」のブースが21となっています（そのほかの業種は一覧表をご覧ください）。

今回の広島水道展は、市民の皆様が日常的に利用されている公園で実施となりますので、展示会場となる部分は囲いを設けて区分します。来場者につきましては、神戸水道展に引き続き二次元バーコードで入場カウントを行うシステムを導入することから、来場者の方々には事前登録をお願いしています。登録サイトから事前登録を行っていただき、二次元バーコードが印字された入場証をプリントアウト、ご持参いただくことでスムーズに入場できる仕組みです。また、この受付システムは、各出展者が電子化した資料をデータで登録すると、来場者はデータで資料をダウンロードできる仕組みも備えており、SDGsにもつながります。

展示会で最新の技術や知見に触れ、また実物を見ることは何よりの人材育成につながります。是非この機会にご来場いただきますよう、関係する皆様のご理解とご協力をお願いいたします。水道事業体に限らず、多くの水道関係者のご来場をお待ちしています。広島でお会いしましょう。